

2011- 2012

2011年度年次報告 2012年度活動計画





気仙沼市松岩小学校での学用品キット贈呈

支えあう心

公益社団法人シャント国際ボランティア会 (SVA) 会長 若林恭英

SVAの活動に共感し、陰に陽に支えてくださる皆さまに、感謝申し上げます。

昨年の東日本大震災では、国内外からご支援や励ましのメッセージをいただき、「絆」や「縁」の大切さを改めて実感しました。復興に向けたあゆみの中で、こうしたつながりを糧として、SVAは気仙沼事務所と岩手事務所を通じて、被災された皆さんに寄り添って活動を行っております。

また昨年は、SVA創立30周年、及びカンボジア事務所開設20周年という節目の年でもありました。改めて積み重ねてきた歴史の重みを感じ、先達の想いを新たに作る機会となりました。この節目を活動の飛躍とすべく、昨年より2013年までの3カ年重点目標を立てました。

- 1) 図書館活動を通じ、165万人に読書の機会を贈り届けます。
- 2) 各国事務所の自立運営に向けた取り組みを促進します。
- 3) SVAの活動に共感し、「共に生き、共に学ぶ」社会実現に向けて、行動を共にする人々の輪を広げます。

この3カ年重点目標を達成するための具体的な活動を展開しています。

私たちが目指している、一人でも多くの子どもたちが教育の機会を持てるようにと、取り組んでいる活動は、国連ミレニアム開発目標 (MDGs) の動きとあゆみを共にするものです。世界には、教育の機会に恵まれない子どもたちが、およそ6,900万人いるといわれています。その原因の第1は、貧困によるものです。その貧困から抜け出す道があるとなれば、教育を受けることができる環境作りにかかっているといえるでしょう。

それはすぐに結果の出るものではありませんが、土壌を耕し、肥料を施すことで作物が実るように、子どもたちの未来を支え、平和な社会の実現のため一緒にあゆんでいただければ幸いです。



SVA宣言 私たちの願い

SVAは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和 (シャント) な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、争いは対話を持って解決される社会のことです。

SVAは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切に、考える力や想像力を培い、社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。

1980
SVAの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議 (JSRC) 設立。カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所 (バンコク) 開設。

1981
JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会 (SVA) を結成。

1984
初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。

1985
タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイのチェンカーンとバンコクにあるスアンブルースラムで図書館活動開始。「クラブ・エイド」始まる。

1989
タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。

1991
カンボジア事務所開設。タイにSVAの現地法人シーカー・アジア財団を設立。

1992
ラオス事務所開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。

1995
阪神・淡路大震災支援。

1999
「社団法人シャント国際ボランティア会」となる。「絵本を届ける運動」開始。

2011
社団法人から公益社団法人に移行。宮城県気仙沼市、岩手県遠野市に事務所を構え東日本大震災被災者支援実施。SVA30周年。「図書館は、国境をこえる—国際協力NGO30年の軌跡」出版。

2005
愛・地球博「地球市民村」へ参加。「アジアの図書館サポーター」開始。

2003
アフガニスタン事務所開設。有馬実成著「地球寂静」出版。

2001
米国同時多発テロ後アフガニスタン難民支援活動実施。「リサイクル・ブック・エイド」開始。

2000
ミャンマー (ビルマ) 難民事業事務所開設。有馬実成元専務理事逝去。



カンボジアで以前建設した学校で行われた
東日本大震災被災地への祈り

救援活動を展開し、その後、地域密着型の復興支援活動を実施。そして、7月には、SVAの海外での経験を生かした図書館活動を岩手県において開始しました。また、SVA活動実施国での募金活動、そして、ヨーロッパ、アメリカの企業・NGOからも、大きなご支援が寄せられました。まさに、国境を越えた絆による支援でした。

SVAがカンボジア難民キャンプで活動を開始して30年の節目でありましたが、震災の影響により、30周年記念行事は縮小せざるをえませんでした。一般寄付金の3割以上の減少、クラフト販売の落ち込み、絵本を届ける運動などの国内活動の参加者の減少など、大きな影響がありました。

海外では、2011 - 13年の3カ年目標のひとつである「読書推進活動の拡充」について、3カ年で165万人の子どもの読書の機会を与えることを目標に活動をしました。2011年だけで80.5万人の子どもに提供することができました。一般募金が落ち込む中、海外事業の指定の寄付金をいただくことができ、震災で大きな影響を受けながらも、乗り越えることができました。一方、事業実施体制の監査強化、初めての大きかりな現地職員の経理総務研修を実施。事業実施を支える仕組みの重要性を再認識した年でした。

さらに、公益法人制度改革の関連法案の施行により、2011年からは、公益社団法人に移行。会計基準が変更となり、理事会が法的にも位置づけられ、より責任をもった運営体制の確立を進めてまいりました。

2011年度を振り返って

3月11日、東日本大震災が発災。千年に一度の規模の大津波、人災とも言える原発事故。阪神・淡路大震災以来、国内外の大災害で活動してきた当会にとっても、予測がつかない、手探りの中での活動でした。拠点の設営、活動の選定など、全国から駆けつけた支援者の皆さまと試行錯誤の中、活動を展開しました。宮城県気仙沼市で緊急



2012年度に向けて

東日本大震災被災者支援活動

2012年、SVAは引き続き、東日本大震災被災者の自立の入口までをサポートしていきます。復興に向けた取り組みを地域の人々と志を共にする支援者とともに継続してまいります。

アフガニスタンにおける新たな展開

9.11同時多発テロから10年、アフガニスタン東部、ナンガルハル州で始まったSVAの教育支援活動は、困難な状況が依然続く中にありながらも、アフガンの人々の努力とともに確かな成果を上げてまいりました。

学校建設事業については、2012年度からその対象地域をカブール州へと移行させ、新たな展開を開始してまいります。

各国の運営現地化に向けて 新たな国における展開を目指して

SVAが目指す“現地運営化”の基本方針に従って、各国事務所ごとに行動計画の策定に着手していきます。

一方、より困難な立場にある国において、これまでの経験、特に読書推進活動の経験を生かした教育・文化支援活動を開始していくことを念頭に、展開方針を定め、実施の可能性を探る調査をスタートさせます。

SVAファン層の拡大に向けて

SVAがこれまで十分にアプローチしきれなかった若い世代層との関係づくりに、また緊急救援活動を通じて関わりをもった人々への継続的な発信に努めていきます。“SVAを知っている層～SVAのファン層”拡大に向けた取り組みを行っていきます。

- ① 設立30周年記念イベント
- ② 来日したスタッフが日本の子どもたちへおはなし会
- ③ 岩手県で行われている移動図書館 (撮影：高橋智史)
- ④ SVAが出版した絵本を手にするアフガニスタンの女の子
- ⑤ ミャンマー(ビルマ)難民キャンプで行われている難民文化祭
- ⑥ 仲良く読書



公用語 タイ語
 首都 バンコク
 面積 514,000km²
 人口 6,388万人 (2010年、IMF)
 GDP 一人当たり4,992USドル (2010年、IMF)
 通貨 バーツ (B)
 日本との時差 -2時間

❖ 2011年7月3日に行われた人民代表院総選挙にて、野党のタイ貢献党が勝利し、タクシン・シナワットがタイ初の女性首相となりました。自然災害も起こった年で、タイ北部などで豪雨が続き、国土の76.6%に当たる58県とバンコク都が冠水するなど、過去50年で最悪の大洪水が襲いました。主要な工業団地も冠水し、操業停止が相次ぎ、多くの人々が一時解雇や失業するなど経済活動にも大きな影を落としました。

移動図書館車

タイ政府は、2009年より就学前3年間と高校までの15年間は、学費などは一切かからないとしています。実際の学校現場では運営資金が不足し保護者からの追加徴収をせざるを得ない状況で、経済力の弱い地方の保護者の負担が重圧となっています。国境地帯およびバンコクを中心に150万人以上存在すると言われるミャンマー(ビルマ)移民労働者の多くは労働条件の低い仕事しか就けず、社会的な地位の不安定さもあり、子どもたちは教育を受けることが非常に困難な状況にあります。その中で、2012年は国境地帯の移民の子どもたちに対する支援を行います。

2014年末のシーカー・アジア財団(SAF)の組織自立化を目指し、タイ国内での開発援助事業を担いながら、事業管理能力、資金調達能力、経営企画力を備えた事業体として自立するための取り組みを進めています。

2011

ミャンマー(ビルマ)国境地帯における読書推進活動

ターク県の保育園および小学校教員を対象とした研修会に162人が参加。研修会で習得した絵本や教材を用いた活動が実施されるようになりました。

またミャンマー(ビルマ)移民の子どもたちが通う学校30校およびウンパーン郡の保育園19カ所で移動図書館活動を行い1万1,386人の児童が参加しました。この移動図書館活動には517人の教員も参加し、技術を習得しました。県教育課が主催する移民学校の全体会議に出席するなどネットワーク強化に努めました。

バンコク・スラム地区コミュニティ図書館運営移管事業

20年近く運営をしてきたチュアパーン図書館の行政への移管のために、区の地域開発課および住民委員長と会議を重ねてきました。2011年度は、運営移管の申請書類一式をヤンナワー区地域開発課へ提出。2012年度にかけて審査が行われます。チュアパーン図書館の年間利用者は1万1,506人となっています。

奨学金事業

2011年からウンパーン郡カレン族とメーソット郡ミャンマー(ビルマ)移民の子どもたちにも、奨学金の支給を開始。バンコク・スラム地域を含め、中学生から大学生までの405人に対して奨学金の支給をしました。334人の奨学生が地域清掃活動を行い、パヤオ県の奨学生60人は使用されていない古い小屋を解体し、地域共同体の農具倉庫に改装するなど、地域貢献の活動にも積極的に参加しています。

学生寮維持管理運営事業

パヤオ県、ナーン県、チェンラーイ県の山間地に居住する少数民族の中高校生50人のための学生寮の自主運営化を進める活動を継続しています。

寮の敷地で、野菜、米、きのこ栽培や豚、魚の飼育を実施したため、食事にかかる費用が2割減となりました。行政からの運営費獲得のため、学校長との協議を重ねています。

スアンプルー・スラム保育園事業

2011年度は、93人の園児を受け入れました。保育士の能力向上のための研修にも力を入れ、モンテッソーリ保育計画、アートセラピー研修、絵本療法、布おもちゃの研修会など、計8回の研修会に参加しました。

保育園の運営移管面では、地区住民のリーダーを中心とした保育園運営委員会と、サトーン区地域開発課との協議が進められ、区への保育園運営移管の申請手続きが完了しました。これにより、2012年5月から、保育士の人件費および昼食費の一部が区より拠出されることが決定しました。

なお、保育園に隣接している図書館は、これまでの地域図書館の役割から保育園内の図書室へと変更しています。引き続き、多くの園児や親子での活動などに利用されています。

2012

ミャンマー(ビルマ)国境地帯における読書推進活動*

- ・移動図書館活動、研修会、絵本の配布を実施。
- ・地域の幼児教育の質の向上を図るため、研修会を開催。

バンコク・スラム地区コミュニティ図書館運営移管事業*

- ・立ち退き問題を含む地域への関わりを強化し、地域自治の向上を促進。
- ・区行政への交渉を引き続き実施。

奨学金事業

- ・奨学金の支給内容・方法など事業運営の見直しを図る。
- ・対象地域の教育状況の情報把握に力を入れる。

学生寮維持管理運営事業

- ・農作物収穫量を向上させ自立度を高める。
- ・政府および民間団体からの運営費を調達。

スアンプルー・スラム保育園事業*

- ・自立運営のため、運営委員会のサポートと能力強化。
- ・区行政の保育園として園児数が増加するため、人事体制、環境の準備を行う。



- ① 移動図書館車
- ② スアンプルー・スラムで伝統舞踊を練習する子どもたち
- ③ 移民のコミュニティにて絵本を手にする子ども
- ④ 学生寮の自立運営のための取り組み
- ⑤ 民族衣装を身にまとう学生寮の学生

* SVAとしての直接的な支援は終了します。本年7月の事業評価結果を基に、今後はSAFが独自に活動を継続していく予定です。

カンボジア

Cambodia



完成した校舎



公用語	クメール語
首都	プノンベン
面積	1,810,000km ²
人口	1,429万人 (2010年, IMF)
GDP	一人当たり813USドル (2010年, IMF)
通貨	リエル (KHR)
日本との時差	-2時間

❖2011年8月、カンボジアの過去最悪という水害は、24州中18州、100万人以上の人々に影響を及ぼしました。カンボジア全水田中17%が冠水し、特に地方の農村地域に大きな被害を与えました。カンボジア政府は、引き続き国の経済成長を政府方針の柱とし、経済基盤強化のためのインフラ整備に力を入れています。一方で、国の基礎となる教育分野においても、教育の質の向上を中心に、引き続き国策の柱として位置づけています。

SVAカンボジア事務所は、2011年20周年を迎えました。これまでの軌跡を振り返り、培われた経験や学びをこれからの活動に生かしてまいります。2011年より新組織体制での事務所運営を行っています。シニアレベルのカンボジア人スタッフに事業運営だけでなく、組織運営への参画を促していくためにもリーダー格の人材育成を強化しています。また、より質の高い支援を実施できるようスタッフの専門性の向上のため努力していきます。事業運営面においては、これまでの事業の評価をもとに、新しい対象地域、受益者を開拓し、新たな挑戦も視野に入れながら、引き続き、SVAらしい事業展開を目指していきます。

兄等合計4万7,699人が参加しました。また、シェムリアップ州とプーサット州の教員養成学校で学生や教員を対象とした「図書館活動研修」を開催し、323人が参加しました。第16回おはなし大会には、17の州・市から各3人選出された先生がおはなしの腕を競いました。

7タイトルの絵本(各3,000冊)と1タイトルの紙芝居(350部)、過去に出版した2タイトルの紙芝居(各3,000冊)の再出版を行いました。2011年は264カ所に、4万5,172冊の本と811部の紙芝居を配布しました。

特記すべき事項として、SVA出版絵本が教育省により全国の対象小学校へ約4万冊配布されることになりました。

スラム事業

プノンベン市内・近郊のスラムと再定住地11カ所にて、移動図書館活動を108回実施し、8,877人の子どもたちや住民が参加しました。またこの地域で活動をする4団体に1,472冊の絵本と38部の紙芝居、移動図書館を配布しました。現地のNGOへの引き継ぎが完了したので、事業としては終了します。来年は、出版事業の一環として引き続きスラム地域での移動図書館活動、図書の配布を行います。

ドリームスクール事業

学校建設対象地域にて水害が発生し緊急救援を実施した年になりました。建設を予定していた10校中、9校(3教室4棟、5教室5棟)が完了。内、9校に4室のトイレ、備品を設置しました。建設した学校には各約100本の苗木を植樹しました。また追加支援としてタケオ州2校、プレイヴェン州1校にて学校校舎修復を行いました。建設中に行う工程管理や完了後のモニタリングの際に、各学校に自由読書の機会を提供しています。127の小学校で8,757人の児童と395人の教員が参加しました。

学校とSVAとの連携を高め、住民参加の促進や学校の運営・維持が円滑に行われるようになるために、研修会を開催。33校からの代表が3日間の研修を受けました。

文化事業

コンポントム州で「仏教の教えに基づいた倫理教育」に関する研修会を開始し、僧侶、村長、校長など130人が受講しました。

伝統文化保護活動を学ぶスタディツアーをスヴァイリエン州とコンポントム州で開催し、29人の僧侶と村長が参加しました。寺院マネジメント強化のための研修会をコンポントム州で実施し、29人の僧侶と関係者が参加しました。シェムリアップ州にて自然保護と伝統文化継承、寺院管理に関する研修とスタディツアーを実施し29人が参加しました。

自然保護と生物多様性保護活動としてスヴァイリエン州の灌漑用水17.4キロにそって植林された3万2,000本の苗木が成長しました。またコンポントム州に1万20本、スヴァイリエン州に5万5,182本の苗木を確保しました。

副州知事、僧侶、村長などが集まり過去5年間行ってきた活動を総括する研修会を実施。スヴァイリエン州では112人、コンポントム州は92人が参加し、事業の評価や将来的にSVAが撤退した後の計画について話し合いの場を持ちました。

2012

住民参加による学校図書館

運営事業(「図書館事業」から変更)

- ・小学校図書館スタンダード(ミニマム・スタンダード・ガイドライン)を満たす学校図書館を建設。
- ・学校図書館員・教員・校長が、学校図書館運営や本選定のための基礎的知識と技術を習得・実践し、PTAと地域住民が、学校図書館に対しての理解を深めるための研修会を実施。
- ・図書推進活動の普及。

絵本・紙芝居出版文化事業

(「図書館事業」から分離)

- ・作家および画家の技術、能力が向上されるための研修会の実施。
- ・対象地域への図書、紙芝居の配布。
- ・配布先対象地域のモニタリング、評価。
- ・移動図書館活動の実施。

ドリーム小学校事業

(「ドリームスクール事業」から変更)

- ・コンポントム州、シェムリアップ州にて3棟(3教室2棟、5教室1棟)の学校建設事業を延長事業として実施。
- ・シェムリアップ州、バンテイミンチェイ

州に5校に学校校舎(5教室6棟)および図書館(5棟)を建設。

- ・学校図書館備品、図書を配布。
- ・住民参加型学校運営および学校図書館運営研修を実施。

文化事業

- ・寺院の管理運営研修会の実施と事業の引き渡しを行う。

図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター事業(新規事業)

- ・事業実施のための調査、省庁との連携強化。
- ・対象地域の集合村にて事業実施のための計画会議を実施。
- ・ネットワーク会議に参加し、政府機関、他機関とコミュニティ学習センター実施における協力体制を強化。



①



②



③

- ①スラムでの移動図書館でおはなしを聞く子どもたち
- ②雨風の心配することなく勉強に励む
- ③図書館事業の研修会

ラオス

Laos



大きな木の下で自由読書



公用語	ラオス語
首都	ヴィエンチャン
面積	240,000km ²
人口	632万人(2009、IMF)
GDP	一人当たり885.71ドル(2009、IMF)
通貨	キップ(Kip)
日本との時差	-2時間

❖2011年は、ヴィエンチャン首都に面するメコン河畔整備工事も進み、南部でタイとの間にメコン河第3の友好橋がオープンし、国営ラオス航空のジェット機導入とシンガポール直行便が就航するなど、域内関係の強化、経済発展を象徴することが相次ぎました。引き続き、周辺国の投資を受け、外資による鉱物開発収入も増えつつ、経済開発が進められています。

2011

図書館と青少年事業

2010年8月からおこなっている、JICA草の根技術協力事業資金による公共図書館支援事業を通じて、ウドムサイ県公共図書館が開館。運営技術向上のため研修会も実施しました。民間支援による建設を行っていたフアバン県公共図書館も2012年1月に完成しました。

6月には、公共図書館の図書館員及び関係者となる情報文化局員、教育局員が行政システムの仕組みを知り、公共図書館を円滑に運営するための予算・人材確保に関する計画予算を作成できるようになることを目的とした研修会を実施。チャンパサック県、サワンナケート県、ヴィエンチャン首都、ヴィエンチャン県、ルアンパバーン県の関係者が受講しました。

ヴィエンチャン県公共図書館が行う、図書館と学校を結ぶアウトリーチ活動の運営を支援。のべ383人の教員が児童に読書推進の実践を行い、5,560人の児童が読書の機会を得ました。

またヴィエンチャン首都図書館員と共に3つの小学校で移動図書館活動を実施。1万3,825人の児童が参加し、6,805冊の本が貸し出されました。

出版活動では4タイトルの絵本(各3,000冊)を印刷しました。1万1,489冊のラオスの出版絵本や2,841冊の絵本を届ける運動を通じた絵本は、公共図書館9館、170校の図書室、子ども文化センター(17県、6郡)、郡図書館19館、ルアンパバーンでの移動図書館(2つのボートを使用)、44校の幼稚園、学校教育支援事業として過去に支援を行ったリソースセンター4カ所に配布しました。

新たな図書館の建設や移動図書館活動の回数が増えたため、図書館利用者は、2010年の20万8,001人から20万8,410人に増加しました。

学校教育支援事業

サラワン県において、3棟の小学校建設(6教室2棟うち1棟は井戸・トイレ設置含む、3教室1棟)を行いました。また、サラワン県スクールクラスター支援教員研修会として、3月に実施した教室運営法講習に151人、5月の新教科書活用法講習に153人、8月の振り返り会議に80人が参加。その後、教員が

自動進級や新しい教科書の使い方を理解し、グループワークを取り入れるなどの新教授法を実施。父母の学校運営への参加が見られるようになりました。そのため、約80%の研修対象小学校で校舎・教室の状況が改善したとの報告があります。

2012

図書館と青少年事業

- ・4タイトル(各3,000冊)の絵本を出版。
- ・ウドムサイ県、サイヤプリ県、シェンクワン県、フアバン県を対象に「行政システムの仕組みを知る研修会(昨年実施と同内容)」を開催。前記の県に加え、チャンパサック県、サワンナケート県、ヴィエンチャン首都、ヴィエンチャン県、ルアンパバーン県の図書館のモニタリング、アウトリーチに関する手引きの作成およびスタディツアーなど、「公共図書館支援事業」を引き続き実施。
- ・移動図書館活動を、ヴィエンチャン首都移動図書館への移譲。発展性を視野に入れて実施。
- ・幼児教育に関する研修会の実施。

学校教育支援事業

- ・サラワン県で2棟(6教室1棟、3教室1棟)およびボリカムサイ県で3教室1棟(トイレ設置含む)の建設を実施。
- ・ルアンパバーン県ヴィエンカム郡でのコミュニティとの学校教育支援事業として、コミュニティ研修を含め、学校建設4棟(6教室1棟、3教室3棟)を実施。
- ・サラワン県で学校のモニタリング後、管理を県・郡教育行政へ移譲。



- ①一字一字読んでいく
- ②新教科書活用法講習
- ③教室運営法講習
- ④子どもたちが通いたい学校づくりのための講習会を実施
- ⑤完成した校舎

ミャンマー(ビルマ) 難民

Myanmar(Burma)Refugees



◎主にカレン族が居住するキャンプ

メラウ	14,088人
メラマルアン	16,163人
メラ	47,391人
ウンビナム	17,764人
ヌボ	15,407人
バンドンヤン	3,868人
タムビン	7,124人
合計	121,805人
2011年2月との比較	-2,217人

(2012年2月、TBBC: Thailand Burma Border Consortium)

❖新政府による民主化プロセスは、これまで「第三国定住」のみであった難民問題の解決法に対して、新たに「本国帰還」の可能性を提示しています。KNU(カレン民主同盟)と新政府の間では停戦が合意、その後の交渉では難民・避難民の安全な帰還についても話し始めました。しかし、その実現には多くの年月が必要とされています。難民がそこにいる以上、基本的な社会サービスは継続される必要もあります。TBBCによると現状では、未だに9キャンプに約14万人が滞留、住民は新たな選択肢を歓迎しつつも、将来に対する不安感がより現実味を帯びてきたようです。

難民子ども文化祭

2000年に開始したミャンマー(ビルマ)難民に対する支援は第4フェーズ(2010~2012年)の最終年を迎えています。21館のコミュニティ図書館ができるだけ難民キャンプ住民によって運営されることを目指して、住民組織に対する研修活動を強化する一方、それをサポートする現地職員に対する人材育成にも力を入れています。「ミャンマー民主化」を受けて国際情勢は大きく変化していますが、14万人のキャンプ住民に対する教育機会は基本的な人権のひとつとして保障されるべきです。SVAは、第4フェーズの評価活動を通して事業成果を確認しつつ、図書館と教育機関との連携を基礎にした新しい事業展開を模索していきます。

2011

図書館事業

◎住民組織による活動運営

住民組織中心の活動運営の手法が記載されている「活動マニュアル」が50部印刷され、研修会を通じて各難民キャンプの関係団体に配布されました。子どもの日や母の日などのイベントのアレンジの仕方など、テーマ別に5種類の研修会を実施。各難民キャンプから1回あたり20人前後が参加しました。

難民キャンプによってまだ格差があるものの、全7カ所の図書館で、図書館員・カレン青年同盟(KYO)・図書館青年ボランティア(TYV)による日常活動、年中行事が行われるようになりました。また人形劇などのおはなし活動も、当会の指導を受けたKYOやTYVのメンバーが実施しています。

図書館の年間利用者は、54万7,896人で、内訳をみると0~4歳が6万5,425人、5歳以上が48万2,471人となっています。

◎伝統文化活動

難民キャンプ委員会、各少数民族グループとの連携により、「難民子ども文化祭」を4カ所の難民キャンプで実施しました。18の民族、ステージ鑑賞者を含めると1,000人が参加する大きなイベントとなりました。さまざまな民族的背景を有する子どもたちが、お互いを理解し、交流を深めてもらうための、交流レクリエーションの活動もプログラムに組み込まれています。回を増すごとに、難民キャンプ委員会の運営に対する主体性が高まっています。

◎図書館の改築

7カ所の図書館の再建と、3カ所のフェンスの設置が図書館委員会の主導で実施されました。これをもって施設の大掛かりな再建は終了しました。

◎図書館運営の体制作り

図書館の運営は、難民キャンプ委員会に任命された図書館委員会(OCEE)が担っています。7つの難民キャンプにネットワーク基盤がある、カレン教育部会のキャンプレベル組織が図書館委員会にメンバーを送るようになりました。現在、少なくとも2つの難民キャンプで同教育部会のメンバー

が図書館委員会の代表に就任しました。

◎図書の出版

2010年にメラキャンプに設立された「出版委員会」との連携で5タイトル2言語(カレン・ビルマ語各1,000冊)印刷しました。また、新たに紙芝居1タイトル(500部)も製作しました。

SVAが出版した絵本4,000冊、絵本を届ける運動を通じて届いた絵本2,825冊、タイ語の絵本に現地語の翻訳シールを貼り付けた本840冊、SVAが購入ビルマ語、カレン語一般書、雑誌、新聞など2万2,946冊、関係団体からの寄贈本1,894冊の合計3万2,505冊を配布しました。

2012

図書館事業

・1月8日子どもの日、8月12日母の日、12月5日の父の日など、図書館関連イベント実施。

・難民子ども文化祭の実施と舞台に必要な伝統楽器衣装の提供。

・21館の図書館の建物維持。

・図書館委員会と教育部会連携強化。

・7キャンプ21館の関係者を対象に5種類の研修会を実施し、活動マニュアル・教材を配布。

- ①活動管理・運営研修会(住民ニーズ調査編)
- ②活動管理・運営研修会(事業改善計画作成編、共通)
- ③諸活動実践研修会
- ④絵本出版、図書配給研修会
- ⑤参加型図書館建設・修繕研修会

・5タイトル(2言語各1,000冊、合計1万冊)の絵本出版。



①出版した絵本を読む男子(ヌボ)
②絵本を読むカレン族の女の子(ウンビナム)
③兄弟で図書館へ(タムビン)
④図書室の前で(メラマルアン)

アフガニスタン

Afghanistan



文房具を受け取った子どもたち



公用語	パシュトゥン語、ダリ語
首都	カブール
面積	652,225km ²
人口	3,240万人 (2011年、UNFPA)
GDP	一人当たり1,000USドル (2011年、CIA) ※予測値
通貨	アフガニー (AFA)
日本との時差	-4時間30分

❖アフガニスタンでは2011年も治安の改善の兆しは見られず、紛争の犠牲となった民間人の死亡者は過去5年間で最高の3,021人（前年2,790人）にのぼりました。対象地域のナンガル州では特に郡部において、反政府武装勢力の力が強い地域が多く、地域によってはNGO職員の移動が困難になっています。7月より米軍の撤退プロセスが開始され、カブール州のほぼ全域やナンガル州の一部でも国軍への治安権限委譲が進められています。

2011

図書館事業

民話や創作の話を題材に、7タイトルの絵本をパシュトゥン語、ダリ語で各1,200冊、2タイトルの紙芝居を2言語各100部出版し、ナンガル州の支援対象校及び公共図書館に配布しました。

学校図書館プロジェクトでは、児童が参加する移動図書館活動によって、教員に対し図書への重要性への理解を促した後に、図書や備品を供与して図書室を設置し、教員を対象に図書館活動の研修を開催しました。30校に図書室が設置され、1校あたりの蔵書数は平均で820冊となりました。また教員研修を38校に、図書館員研修を26校に対して実施。この結果、1カ月あたりの小学生児童の図書貸出数が平均で535冊、図書室利用者数が平均で958人となりました。

また情報文化省が設置したナンガル州の5つの公共図書館の支援も実施。児童向け図書の配布、移動図書館活動、モニタリングを行いました。この結果、5つの図書館での蔵書数は平均2,319冊となりました。また、1カ月あたりの児童の図書貸出数が平均で62冊、図書室利用者数が平均で115人となりました。

子ども図書館は、年間に292日開館し、利用者数はのべ6万1,676人で、内50%は女子でした。不就学児童のための特別教室については、50人が就学していましたが、引越し等の理由のため修了したのは34人でした。

学校建設事業

ナンガル州の農村部で学校建設を実施。9室（6教室、1図書室、1職員室、1教材室）の校舎2棟と12室（8教室、1図書室、1校長室、1職員室、1教材室）の校舎2棟の合計4校の建設を行いました。内1校には5室あるトイレも設置しました。各学校には、机、椅子、棚など備品及び図書室の整備のための図書や本棚を供与。教具や文具の配布を行いました。また建設終了後には、教員と住民に向け校舎の維持管理についてのワークショップも開催しました。校舎が新設されたことにより、不就学児童の親が子どもを学校に行かせる動機づけも高まり、4校における就学児童数が812人増加しました。

2012

図書館事業

- ・絵本・紙芝居出版は、絵本（ダリ語1,200冊、パシュトゥン語1,200冊）を6タイトル、紙芝居（200部）を2タイトル出版。過去出版絵本6タイトル（各言語1,200冊）を再版。
- ・ナンガル州郡部での学校図書室改善事業及び同州での公共図書館改善事業を実施。
- ・主事務所のカブール移転に伴い、子ども図書館はジャララバード副事務所内に移転。

学校建設事業

- ・カブール州に対象地域を変更する。
- ・州郡部では、生徒数が1,700人を越える大規模校が多いため、2階建て16教室の学校校舎を2棟建設。備品・教材の供与を行う。
- ・建設校の1室を図書室として整備するため備品、図書（700冊）を供与。
- ・施設の維持・管理ワークショップを実施。



- ①教員研修会
- ②出版した絵本
- ③出版した絵本
- ④教員研修でグループワークに取り組む教員
- ⑤図書館員研修
- ⑥基礎工事

2011年度はナンガル州の農村部2郡を対象にした学校図書館事業を開始しました。また同州の5つの公共図書館に児童図書コーナーを設置しました。9タイトルの絵本・紙芝居を出版しました。郡部において4校、28教室の学校の校舎建設を行い、各校に図書室も設置しました。ジャララバード市内で子ども図書館を運営し、年間でのべ6万1,676人（1日あたり211人）が利用しました。また学校に行けない50人の児童のために特別教室を開きました。

2012年度は主事務所をカブールに移し、学校建設事業は、同州の郡部の2校、32教室を建設します。ナンガル州での学校図書館活動は最終年を迎え、対象校での図書館活動の定着を図ります。子ども図書館の運営を継続します。

緊急救援

Emergency Relief



家に残っているものを探す人々

少しずつ復興に向けて歩み始めておりますが、被災された方々の生活の再建には、まだ道のりは遠く、地元の方々と協働し継続的な支援が大切になっております。SVAは、支援の取り組みにおける基本方針を策定し、復興への活動を継続してまいります。

基本方針

- 被災された方は援助を待つ対象でなく、自ら復興に関わる主体であることを前提とした自立のための支援を行う。(緊急から復興の入口までをサポート)
- 地縁社会を礎にした地域の暮らしの再建支援、相互扶助組織・住民組織の再生支援を進める。
- SVAがこれまで培ってきた図書館活動の経験を生かし、移動図書館プログラムを通じた人々への心のケア活動を展開する。
- 行政・民間に関わらず、セクターごとの壁をこえた協働の仕組みを早期に、継続的に構築し、被災者の自立支援に向けた情報共有と政策提言等を行っていく。
- 漁業をはじめとする地域レベルの生業の

再建・再生支援への関わりを積極的に模索し、サポートしていく。

2011

つながる人の和 復興プロジェクト気仙沼

2011年5月までは、緊急救援の活動を実施。SVAのボランティアが2チーム(本吉地区、唐桑地区)に分かれ21カ所の避難所を巡回して必要なものを聞きながら、物資の配布を行いました。全国の協力団体と行った炊き出しは16カ所で行われ6,000食を配食しました。1週間に9カ所の避難所を対象に、温泉施設への送迎を実施。5週間で45回運行し、延べ743人が利用しました。また宮城県と気仙沼市の教育委員会と連携し、気仙沼市の11カ所の小学校に文具セットを新学期に合わせて配布しました。避難所では行茶活動を3カ所で行い、各回20~50人にご参加いただきました。またNPO法人日本冒険遊び場づくり協会、Youth for 3.11と協力し、気仙沼市大谷地区に子どもの遊び場(あそびばー)を開設しました。

2011年3月11日に起った東日本大震災は、死者1万5,856人、行方不明者3,070人、全壊家屋12万9,404戸、半壊家屋25万5,737戸(2012年4月11日、警察庁)と、広域に甚大な被害を及ぼしました。SVAは3月15日から被災地に入り、炊き出し、物資配布などの活動を開始。宮城県気仙沼市と岩手県遠野市に事務所を構え、被災者支援活動を行っています。また昨年はタイとカンボジアで大水害が発生。農村部では、家の財産ともいえる田畑が全滅。学校も水没するなど子どもたちにも大きな影響を及ぼしました。工場地帯の被害は、経済に大きな打撃を与えました。

6月以降は、地域コミュニティ支援として、地元で行われる祭りの運営の手伝いや、避難所・仮設住宅で凧作り、法話会、コンサートなどのイベントを行いました。自然と人が集まる場所である青空カフェを実施。体や心があったまるように足湯や温泉ツアーの調整も行いました。子どもの支援として、6月には震災後の避難訓練に合わせて、9カ所の小学校と幼稚園に1,092個の防災ずきんを配布。また授業時間が短くなった子どもたちを支えるため学生ボランティアが主体となり学習支援も行いました。

震災遺族会である「つむぎの会」の開催ため会場準備などの手伝いを行っています。震災の経験を残す活動として聞き取りの活動を実施。報告会実施は講演会で発表をしながら、震災を風化させない、経験を生かすための取り組みを行っています。

そのほか気仙沼市で活動する支援団体の連絡会の開催調整、ボランティア連絡会への出席、行政や地元商業セクターのとの連携を行うなどネットワーク作りにも積極的に取り組んでいます。

いわてを走る移動図書館プロジェクト

陸前高田市、大船渡市、大槌町、山田町の公立図書館は、全部または一部の図書館機能を失うほど大きな被害を受けました。これら4市町に暮らす方たちの本に触れる機会を途切れさせてはならないと、2011年6月に岩手県遠野市に事務所を設置。7月より移動図書館活動を開始しました。

移動図書館は4市町15の仮設住宅を巡回。2週間に一度お伺いし、一人5冊までの貸し出しを行っています。またお茶を飲めるスペースを設け、集いの場ともなっています。7月から12月末までに、利用者総数2,791人。貸出冊数5,288冊となっています。

移動図書館が来なくてもそばに本があるように、大槌町の仮設住宅の集会場・談話室に文庫を設置する「いわての置き本」を実施しました。定期的な本を入れ替え、いつも新しい、いつも楽しい本棚を作っています。

また山田町立図書館にて、図書データの登録を行うなど、図書館機能の復興に向けた手伝いも行っています。

社団法人日本図書館協会、社団法人読書推進運動協議会、岩手県立図書館、対象となる市町から共催・後援を、岩手県の団体

である3.11絵本プロジェクトいわてから協力をいただきました。また全国図書館大会や図書館総合展にブースを出すなど、全国の図書館員のネットワークを構築しています。

タイ・カンボジア大規模水害

今回の洪水で、村や道路が冠水しました。村の家屋周辺の水は、家畜の糞尿や排水が入り混り、衛生状態も劣悪な中、家が水没した人たちは幹線道路に避難し、支給されたテントで暮らしていました。

SVAは、10月に物資の配布を実施。タイでは、ロップリ県やパトタニ県にて、タオル(大と小)、インスタントラーメン、インスタントお粥、ライター、懐中電灯、蚊取線香、生理用品、家庭用常備薬セットが入った緊急救援パックを配布。カンボジアでも、コンポントム州とシエムリアップ州の村で、米30キロ、砂糖、塩各1キロ、漬物、インスタント麺を配布しました。

2012

つながる人の和 復興プロジェクト気仙沼

- 専門家と協力し、住民の声を聞きながら行政との調整を担う集団移転支援事業の実施。
- 住民参加型で実施される前浜コミュニティセンター再建の支援。
- 絵を描くことによる心のケアのプログラムの実施。子どもたちが描いた絵を用いた絵本を出版。
- あそびばーの継続と地元への定着化のための取り組み。
- ワカメ養殖の再開に向けて、新たな価値づくりと販路づくりのアシスタント。
- 行政、NPO・NGO以外の地元商工セクターなどとの連携。

いわてを走る移動図書館プロジェクト

- 移動図書館活動の巡回場所を25カ所に拡充。
- 文庫活動の充実を図り50カ所に文庫を設置。
- 仮設住宅内の集会場への文庫設置の拡充。
- 陸前高田市と大槌町にコミュニティ図書室を設置、運営。
- 図書館関係の機関、団体、個人とのネットワーク構築。



①温かいごはんを用意(気仙沼)
②7月17日の移動図書館初運行(岩手)
③大槌町「かねざわ図書室」オープニング(岩手)
④海外事務所の職員が移動図書館に参加(岩手)
⑤救援物資を村の小学校に集まった被災者に舟から配布(タイ)



2011年度は東日本大震災を受け、被災地支援に多くの関心が集まりました。宮城県と岩手県の活動は今までご協力をいただいております皆さまから支えられたのと同時に、3,746人の方が初めてSVAのことを知り、温かいご支援をお寄せいただきました。しかし、通常取り組んでいる事業全般の予算が達成できず、苦戦した1年となりました。2012年度は更に新規の方が増え、活動に取り組んでいただけるように励んで参りたいと思います。



アジアの図書館サポーター

図書館を通して日本とアジアをつなぐ

図書館を通して活動地と日本をつないでいます。5月には活動地の子ども達からの写真入りメッセージカードをお送りしました。10月からは入会キャンペーンを行い、入会いただいた方からミャンマー（ビルマ）難民キャンプの子ども達にメッセージを送りました。子ども達は日本からのじかの声をとともよこんでくれました。2011年末現在、661人、755口の登録をいただいています。



広報

スピードと質を考慮しながら情報発信

東日本大震災の後、現地の情報や活動を伝えるためスピードと質を考慮しながらの情報発信を心がけた年となりました。メールニュースは104回、メディア向けのプレスリリースは57回配信。新聞など外部媒体への記事掲載は296件となりました。昨年は、東日本大震災復興支援チャリティ寄席が84回開催されました。2012年は、報告会やイベントを積極的に行いPRに努めてまいります。



絵本を届ける運動

絵本を子どもたちの手に

2011年度分として、1万6,007冊の絵本を海外に発送。1999年の事業開始以来、送付冊数は19万冊を超えました。従来の方法を見直し、収集タイトルの内容や新規翻訳シールの作成方法を変更しました。例年よりお申込み冊数は減少したものの、多くの方にご協力をいただきました。2012年度は合計1万5,640冊を目標にご協力を呼びかけます。



クラフト・エイド

フェアトレードで人と自然に寄り添う生活を

2011年は震災の影響で出張販売、イベント委託、店舗からの注文が減少しましたが、個人協力者からの注文は堅調でした。さらに、新聞9社にクラフトプレゼント記事が掲載され、4,300件超の応募があり新規カタログ送付先が1,360件増えました。2012年は震災後の生活・消費活動を見直す人が増えるため、国を超えた産直活動・フェアトレードの意義をアピールしていきます。

リサイクル・ブック・エイド

30周年事業「本から本へのプロジェクト」

2011年は「本から本へのプロジェクト」として、リサイクル・ブック・エイドを通じて30万冊の本を集め、海外の活動地で1万冊の絵本出版を目指しました。取り組みのお願い、記事掲載のアプローチ、外部・内部合わせて4回のキャンペーンを行いました。多くの方々に支えられていることを強く実感しました。成果として、年間1,153件（新規406人）のお申

込みがあり、最終的に15万3,611点の本、CD、DVD、ゲームソフトなどをお寄せいただきました。カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタンで4タイトル6言語1万400冊の絵本を出版し、合計77万3,922人に届けることができました。絵本出版をしていないタイは、移動図書館活動支援に充て、保育園、学校の児童が900人参加しました。



海外事業支援

事業運営を円滑に行うため人材育成を強化

2011年度は多くの方々からのご支援を受けて海外事業の指定寄付・助成金調達を目標通りほぼ達成することができました。事業運営・改善面では、カンボジア、ラオスでの事業終了評価や新規事業計画をサポート、人材育成として近年行っている合同研修では経理・総務研修を行いました。2年目となったシーカー・アジア財団自立化計画においては中間評価及びアドバイザー派遣評価を実施しました。2012年度は引き続き、人材育成・事業運営面の支援を強化していきます。



	カンボジア	ラオス	ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ	アフガニスタン
絵本題名	心優しいアリ	モーフアックの息子たち	ギョロちゃんどろくすん	自由になったオウム
言語	クメール語	ラオス語	カレン語 ビルマ語	ダリ語 バシュトゥー語
冊数	3,000冊	3,000冊	各言語1,000冊	各言語1,200冊
対象	学校 移動図書館	移動図書館 SVA併設図書館 公共図書館	コミュニティ 図書館	学校 こども図書館 公共図書館
受益者	48万4,928人	17万2,221人	6万5,425人	5万1,348人

2011年度正味財産増減計算書

2011年1月4日～2011年12月31日

一般正味財産の部

◎経常増減の部 (単位:円)

(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	316,957
② 特定資産運用益	67,014
③ 受取会費	26,349,000
④ 受取寄付金	384,863,335
⑤ 受取補助金等	106,127,786
⑥ 事業収益	60,830,172
⑦ 雑収益	937,467
経常収益計	579,491,731

(2) 経常費用

① 事業費	
公益目的事業 1 途上国における開発協力事業	
タイ事業費	33,162,734
カンボジア事業費	88,905,422
ラオス事業費	57,180,797
ミャンマー難民事業費	33,111,671
アフガニスタン事業費	89,962,592
海外事業支援費	23,609,663
アジアの図書館サポーター事業費	4,117,531
公益目的事業 1 計	330,050,410
公益目的事業 2 国内・国外における緊急救援事業	
東日本大震災支援事業費	75,750,936
パキスタン洪水支援事業費	6,545,391
タイ水害支援事業費	2,513,446
カンボジア水害支援事業費	2,383,704
ミャンマー難民キャンプ洪水事業費	2,220,901
緊急救援事業支援費	4,866,312
公益目的事業 2 計	94,280,690
公益目的事業 3 開発協力事業に関する普及啓発事業	
絵本を届ける運動事業費	31,455,389
広報事業費	21,460,138
公益目的事業 3 計	52,915,527
公益目的事業共通事業費	13,863,567
公益目的事業合計	491,110,194
収益事業等	
クラフト・エイド事業費	28,582,585
業務委託費(コンサル)	188,844
リサイクルブックエイド事業費	8,468,669
30周年記念事業費	8,787,864
収益事業等計	46,027,962
② 管理費	24,590,114
経常費用計	561,728,270
評価損益等調整前当期経常増減額	0
当期経常増減額	17,763,461

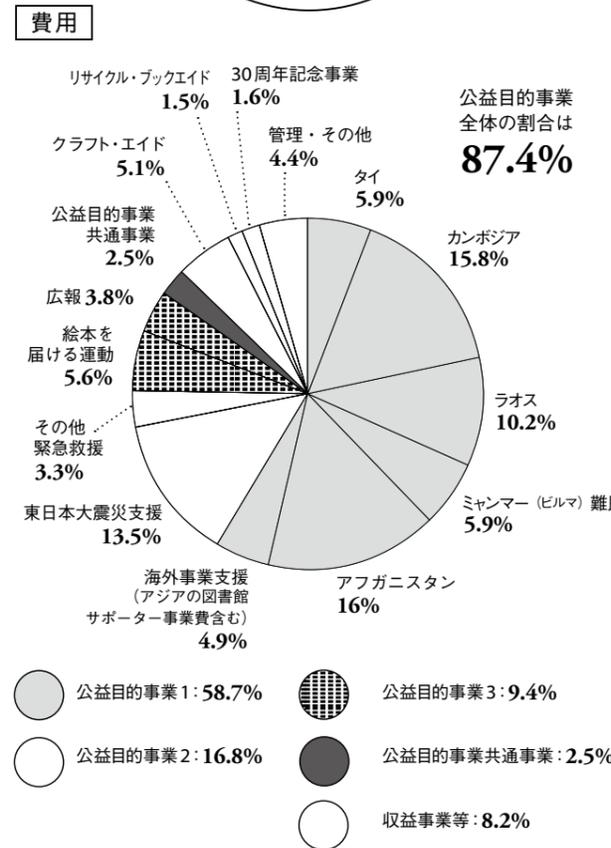
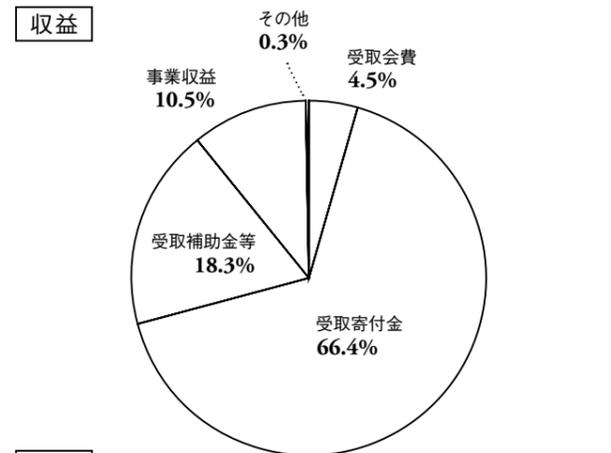
◎経常外増減の部

(1) 経常外収益	
固定資産売却益	238,023
経常外収益計	238,023
(2) 経常外費用	
補助金返還損失	12,203,457
法人税、住民税及び事業税	64,100
経常外費用計	12,267,557
当期経常外増減額	▲12,029,534
当期一般正味財産増減額	5,733,927
一般正味財産期首残高	187,533,889
一般正味財産期末残高	193,267,816

指定正味財産増減の部

(単位:円)

① 基本財産運用益	316,957
② 受取補助金	126,335,070
③ 受取寄付金	341,216,678
④ 固定資産受贈益	5,696,692
⑤ 一般正味財産への振替額	▲164,785,486
当期指定正味財産増減額	308,779,911
指定正味財産期首残高	373,342,077
指定正味財産期末残高	682,121,988
正味財産期末残高	875,389,804



貸借対照表

2011年12月31日現在

◎資産の部 (単位:円)

(1) 流動資産	
現金預金	211,022,126
貯蔵品	
手工芸品	4,141,861
その他貯蔵品	351,501
売掛金	883,867
前払金	7,790,474
短期貸付金	2,148,887
仮払金	42,718
流動資産合計	226,381,434

(2) 固定資産

(1) 基本財産	
基本金預金	21,195
投資有価証券(国債)	49,978,805
基本財産合計	50,000,000
(2) 特定資産	
民間補助金預金	139,535,070
寄付金預金	536,573,177
車両運搬具(岩手分)	21,208,363
特定資産合計	697,316,610
(3) その他固定資産	
車両	12,742,551
備品	393,863
電話加入権	70,157
ソフトウェア	216,927
差入保証金	2,083,767
その他固定資産合計	15,507,265
固定資産合計	762,823,875
資産合計	989,205,309

◎負債の部

(1) 流動負債	
買掛金	10,657
未払金	6,043,752
前受金	55,507,481
預り金	7,175,839
預り税金保険料	2,610,109
未払消費税	364,098
未払法人税等	69,900
流動負債合計	71,781,836
(2) 固定負債	
退職給付引当金	14,833,669
焼野基金準備資金	27,200,000
固定負債合計	42,033,669
負債合計	113,815,505

◎正味財産の部

(1) 指定正味財産	
基本金	50,000,000
民間補助金	139,535,070
寄付金	487,255,855
受贈固定資産(車両運搬具・岩手分)	5,331,063
指定正味財産合計	682,121,988
(うち基本財産への充当額)	(50,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(632,121,988)
(2) 一般正味財産	
一般正味財産	193,267,816
(うち基本財産への充当額)	0
(うち特定資産への充当額)	(37,994,622)
正味財産合計	875,389,804
負債及び正味財産合計	989,205,309

2012年度収支予算書

2012年1月1日～2012年12月31日

一般正味財産増減の部

◎経常増減の部 (単位:円)

(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	300,000
② 特定資産運用益	250,000
③ 受取会費	29,000,000
④ 受取寄付金	415,528,392
⑤ 受取補助金等	136,110,960
⑥ 事業収益	55,286,334
⑦ 雑収益	136,800
経常収益計	636,612,486

(2) 経常費用

① 事業費	
タイ事業費	15,360,000
カンボジア事業費	98,002,813
ラオス事業費	33,753,414
ミャンマー難民事業費	28,090,518
アフガニスタン事業費	106,849,802
現地職員退職給付費用	1,058,400
緊急救援事業費	61,783,000
絵本届ける運動絵本購入費用	13,762,000
クラフト・エイド売上原価	14,500,000
RBA販売原価	4,230,000
人件費	166,743,900
東京事務所事業間接費	71,181,920
② 管理費	23,846,900
経常費用計	639,162,666
当期経常増減額	▲2,550,180

◎経常外増減の部

(1) 経常外収益	
	0
(2) 経常外費用	
法人税	70,000
経常外費用計	70,000
当期経常外増減額	▲70,000
当期一般正味財産増減額	▲2,620,181
一般正味財産期首残高	187,557,965
一般正味財産期末残高	184,937,785

◎指定正味財産増減の部

受取補助金等	0
一般正味財産への振替額	122,782,599
当期指定正味財産増減額	▲122,782,599
指定正味財産期首残高	554,409,404
指定正味財産期末残高	431,626,805
正味財産期末残高	616,564,590

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、
 当会監事による監査及び田中義幸公認会計士事務所による
 財務諸表の外部監査を受けております。

組織ネットワーク

Organization & Network

◎会員

会員合計	1,901 人
社員会員	323 人
個人会員	269 人
団体会員	54 人
賛助会員	1,578 人
個人会員	1,391 人
団体会員	187 人

(2011年12月31日現在)

◎国内における主な受賞歴

正力松太郎賞 (1984年)	
ソロプチミスト日本財団賞 (1985年)	
外務大臣賞 (1988年)	
毎日国際交流賞 (1994年)	
東京都豊島区感謝状 (1995年)	
防災担当大臣賞 (2004年)	
兵庫県知事感謝状 (2005年)	
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)	
宮城県社会福祉協議会感謝状 (2011年)	

(2012年4月1日現在)

◎名誉会長

松永 然道 静岡県・宗徳院東堂

◎顧問

足立 房夫	社団法人協力隊を育てる会会長 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長
阿部 豊淳	宮城県・光寿院住職
荒巻 裕	近畿大学副学長・総合社会学部長
小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会常務理事
川原 英照	熊本県・蓮華院誕生寺貫主 特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会会長
白石 孝	荒川区職員労働組合特別執行委員
籾本 宏昌	東京都・泰宗寺住職
松野 宗純	福井県・地藏院東堂、全国PHP友の会相談役

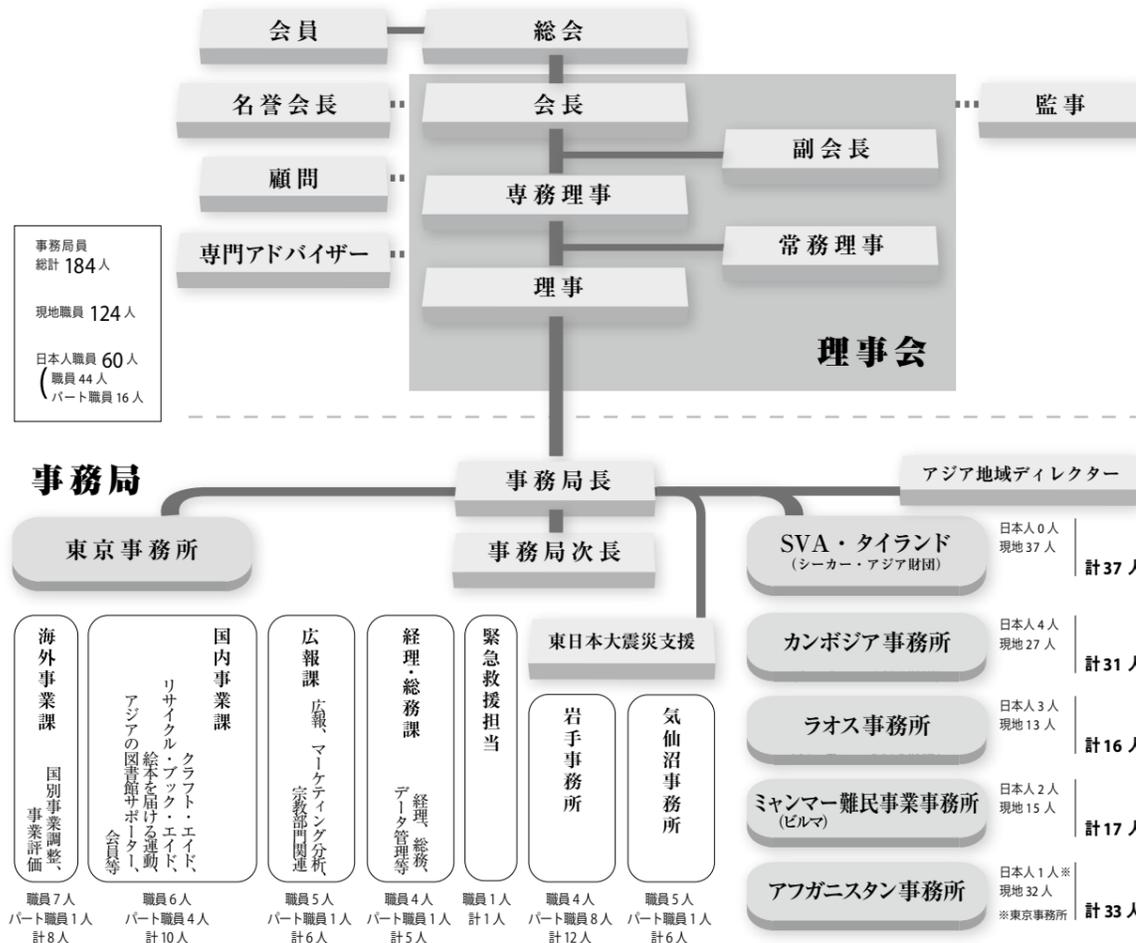
◎SVA専門アドバイザー

佐藤 涼子	特定非営利活動法人全日本語ネットワーク理事長
田尻 佳史	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 常務理事・事務局長
田中 弥生	日本NPO学会会長
松尾 純代	大阪マイペンライ運営委員

◎役員

会長	若林 恭英	長野県・安楽寺住職
副会長	神津 佳子	有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長
副会長	三部 義道	山形県・松林寺住職
専務理事	茅野 俊幸	長野県・瑞松寺住職
常務理事	倉科 利行	長野県・全久院住職
常務理事	早坂 文明	宮城県・徳本寺住職
理事	上原 泰男	東京災害ボランティアネットワーク事務局長
理事	亀崎 弘記	九州電力労働組合本部書記長
理事	神 仁	財団法人全国青少年教化協議会主幹
理事	角 直彦	特定非営利活動法人シャンティ山口代表理事
理事	関 尚士	SVA 事務局長
理事	長浜 洋二	NPOコンサルタント NPOサポートセンター・アドバイザー
理事	永堀 宏美	人材(人財)開発&教育コンサルタント
理事	野村 修一	弁護士
理事	萩野 頼子	株式会社飯能製作所代表取締役社長
理事	秦 辰也	近畿大学総合社会学部総合社会学科 社会・マスメディア専攻教授
理事	笹岡 賢司	静岡県・龍谷寺住職
理事	八木沢 克昌	SVAアジア地域ディレクター
理事	渡辺 恵司	ワタケイ紙器株式会社代表取締役会長
監事	青木 利元	ボランティア活動国際研究会代表
監事	増田 和生	大阪マイペンライ

(2012年4月1日現在)



参加ネットワーク一覧

◎国内

The Asia Disaster Reduction & Response Network (ADRRN)【メンバー】／動く→動かす【フレンズ会員】／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【監事】／NGOと企業の連携推進ネットワーク【会員】／NGO-労働組合国際協働フォーラム【団体会員】／開発教育協会 (DEAR)【団体会員】／紙芝居文化推進協議会【会員】／カンボジア市民フォーラム【世話人】／教育協力NGOネットワーク (JNNE)【事務局長】／国際協力NGOセンター (JANIC)【正会員】／災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議 (支援P)【検討委員】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助会員】／ジャパン・プラットフォーム (JPF)【会員】／地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL)【団体会員】／震災がつなぐ全国ネットワーク (震つな)【会員】／東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会【委員】／東京災害ボランティアネットワーク (東災ボ)【副代表、運営委員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク (JANN)【団体会員】／日本NPOセンター【会員】／日本図書館協会【会員】／日本ファンディング協会【団体会員】／日本UNHCR-NGOs評議会 (J-FUN)【団体会員】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／貧困のない世界の実現をめざすネットワーク日本 (GCAP Japan)【サポーター】／仏教NGOネットワーク (BNN)【副代表、運営委員】

◎海外

タイ Books for Children Foundation【会員】
Task Force for Children in Thailand (TFCT)【会員】
The Publishers and Booksellers Association of Thailand【会員】
いきいきした学校図書館を考えるネットワーク【会員】

カンボジア Cooperation Committee for Cambodia (CCC)【会員】
Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)【世話人】
NGO Education Partnership (NEP)【会員】

ラオス International NGO Network, Education Sector Group【会員】
International NGO Network【会員】
Japanese NGO Meeting (JANM)【参加】

ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ Committee for Coordination of Services to Displaced Persons in Thailand (CCSDPT) (難民支援事業調整委員会)【会員】

アフガニスタン Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)【会員】

全体 Asian South Pacific Bureau of Adult Education (ASPBAE)【理事】
(2012年4月1日現在)

手を、とりあうこと。

寄付金について、税の優遇措置が、受けられます。

募金には所得税、住民税、法人税及び相続税の税控除が認められています。当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。